

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公)

討議年月日: 令和 2 年 3 月 30 日

公表: 令和 2 年 3 月 31 日

事業所名        どもデイサービスぽると

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		国の基準に基づいた定員人数のスペース以上を確保している	定員人数に対する広さは十分確保している。保護者に分かりやすいように今後も最善のスペース作りに努めていく。
	2	職員の配置数は適切である	○		国の基準に基づいて、配置している。	規程の人数以上に確保できているが保護者に分かりやすい様に文章や面談等で説明していく。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		現在、通所している子に対して、必要な配慮を行っている	今後、必要が生じた場合に賃貸契約内で出来る工夫をしていく
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の申し送りだけでなく、定期的な研修と会議を開いていく。	会議等の機会を増やし日にちや時間の配慮を行い広く参画できるようにする
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		外国人の保護者に対して、対面での説明やルビを振るなどの対応をしている。	意向に対してお便りなどを通して順次改善点を伝えていく
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページやお便りで公開。	会報に改善点を分かりやすく伝える。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者外部評価を行っていないが今後行う予定である	今後、適切な方をお願いし、行っていくようにする。
8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的な研修を開き、障害への理解や対応を話し合っている。	自発的に要望のある研修の参加やアクティブラーニングの機会を取り入れる	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		必要に応じて、随時、保護者との面談を行い、その内容に応じて適切な計画を作成している。	今後も、子どもや保護者のニーズにより添えるように、努めていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		使いやすい形式の書面を利用している。	分かりやすいアセスメントツールの作成して、しっかり状況を把握できるようにしていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全職員で行っている	個々に立案した活動プログラムを会議にのせ職員全員で肉付けしている
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		支援内容が偏らないように、常に工夫している。	研修成果やネットや文献などを参考にしながら工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		生徒の利用時間に合わせた活動内容にしている。	計画を立案して、もっと子どもたちが楽しめる活動作りを心掛けていく。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		個々の障害特性に合わせた個別、集団活動計画にしている。	個別、集団ともに支援プログラムを増やすことで、充実したものを提供している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日々の申し送りで、当日の職員の動きの確認を心がけている。	2週間分の職員の担当や動きを周知できる様に表示し、事前に心がまえができる
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		行なっている	日々の申し送り以外の場でも、後で思い出した時にはグループライン等を使用し情報共有の場を設けている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の支援だけでなく行事等の単発的なものも行っている	記録のみで終わる事無く、申し送りや会議などでも改善の場を作っている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを行って見直しを行なっている。	必要に応じて迅速に見直しし、支援に反映していくようにしている
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○		ガイドラインに則るだけでなく、老人ホーム慰問などを設定し交流を図っている。	さらにガイドラインを活用していく。

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		専門の担当者がサービス担当者会議に参画している。	担当者が参画した内容は、サービス担当者会議の後、すぐに円滑に他の職員へ伝達できる様になっている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校からは様子の聞き取りや学年通信なども頂いて、必要に応じて事業所から児童の様子学校へお伝えして、情報共有をしている。	今後も、各学校の担任教師や担当者と密に情報交換をしていく。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケア必要になる子がない。	現状、医療的ケアの子どもがいないので、必要な子の受け入れがあった場合、研修棟を受講して体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		受け入れの際に、保護者から就学前の情報提供を頂いて、必要に応じて園等からも情報提供をして頂いている。	必要に応じて、円滑に情報提供を進めていく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供するなどしている	○		事業所から連絡があった場合、情報共有をしている。	円滑に情報提供をしていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		案内があれば研修を参加している。	もっと円滑に助言や研修を受けるために、親密な関係を築いていきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		障害のない子どもと活動する場は多くないが、地域の公園でレクを行なって機会を少しでも増やしている。	もっと活動範囲を広げて、子どもの交流場所を増やし、交流会などが開けるようにしていきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		協議会等からの案内があれば参加する。	開催の呼びかけがあれば、積極的に参加していきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達状況や課題について共通理解を持っている	○		面談や送迎の場を通して共通理解していただけるように話をしている。	共通理解していただけるように、適切な支援をしていく。
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者からの相談に対する援助に留まっている。	職員でも対応できるように、研修の成果を職員間で知識の共有をできるように努めていく。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に運営規程、支援の内容、利用者負担等について説明を行ない、後日質問があったら迅速に対応している。	職員の誰でもがすぐに話ができるように研修等で知識の共有を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		面談や送迎時などで、悩みに応じた助言と支援を行っている	今後も相談しやすいような雰囲気づくりを継続していく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者に尋ねたが、要望がなかったため、今年度は行っていない。	行なっても人数が集まらなかった。要望があれば、開催していきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情マニュアルに基づいて担当の者が迅速に対応する。	今後も、継続して対応の体制管理、迅速な対応をできるように努めていく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		日々のブログの更新や定期的なお便りの配布を行なって、情報の公開を行なっている。	ブログの更新やお便りの配布の頻度を上げ伝えていく
	35	個人情報に十分注意している	○		写真の公開はモザイクをかけて個人を特定されないようにし、書類は鍵付きの棚に厳重に保管している。	引き続き厳重に注意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		分かりやすい説明や連絡手段を検討して支援している	障害のある子供や保護者だけでなく、日本語の分からない外国人保護者にもローマ字で連絡帳を書いたり配慮をしている
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		老人ホームの担当者等と定期的に連絡を取り合っており、イベント等を行っている	引き続き交流を図って、さらなる範囲の拡張を考えていく

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	マニュアルを作成して、それを基に職員の研修等を行っている。行っていることを口頭や連絡帳で保護者に伝えている	口頭や連絡帳だけでなく、どんだんお便りやブログ等を使って、保護者の方に研修等を行っている事を伝達していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期的に施設内訓練と専門業者に委託訓練とを合わせて訓練を行っており、その都度、お便り等で活動の報告を行なっている	定期的な施設内訓練や研修や訓練等を行っていることを、保護者に周知してもらえるように、ブログや送迎時やお便りを利用している
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	市や県の研修会に参加し、勉強した内容を事業所内で伝達する。	研修会で得た知識を職員間で共有して、見分を深めておく。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	現在、やむを得ず身体拘束が必要になる子がいない。	必要な子の受け入れがあった場合、受け入れ前に整えて受け入れできるようにしていく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	現在、食物等のアレルギー持ちの子がいない	研修を通して、アレルギーに対する知識を深めている
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	発生時は迅速に申し送り職員間に伝達して予防・改善に努めている	これまでに大きな出来事はないが、定期の会議でヒヤリハットの内容を報告し職員間で予防に努めている